

### №. 2 家庭教育シリーズ

親は、わが子を良い高校・大学へ進学させたい期待感があるため、学習塾に通わせたり、次のような言葉が鉄砲玉のように次から次と出てくる。

言葉は、生活上重要な働きをしています。自分の気持ちを言葉にこめて相手に伝えることができれば、日常生活でも心よい間柄になると思います。

しかし、親の無意識や何げなく言った言葉が子どもにとってはいやな思いとなつて自分の歩む方向を変えてしまうことがあります。

#### ・・・勉強しなさい

「テレビやファミコンばかりやっていないで勉強しなさい」「マンガ本ばかり読んでいないで勉強しなさい」と親は5回言うより10回言った方が効果があると思つて言うけれど、子どもにとっては迷惑の上もなく、そのため子ども

から返ってくる言葉が、「うるせいな・・・わかつているよ、やればいいんだろ!」「何回も同じこと言うなよ、余計にやりたくなくなるよ」

#### さつさとやりなさい

子どもはひとつのことに熱中しますが、行動に対しては緩慢差があります。「あなたははどうしてそんなにぐずぐずなの、だから誰々さんに負けてしまうのよ」「早くしなさい」「それが終わったら次に何々

## お母さんその一言が多いのです

家庭教育指導員 大木 國 臣

しなさい」子どものやることなすことが遅くて待っていられず、ついつい手を出したり、指示をしたりする。そのため子どもは指示されないと何をしてもよいのかわからない受身の態度になってしまい、子どもの自主性はけつして育ちません。

うるさいから、あつちにいってなさい

子どもは好奇心が強く、体験

したことや問があると率直に話してみたい、聞いてもらいたいので親に絡み付き「きいて、きいて・・・」「・・・なぜ、なぜ」「・・・どうして、どうして」と真剣になつて話をします。

忙しいことを理由に「もうわかつたからいいよ」と話を途中で中断したり、「うるさいからあつちにいきなさい」と初めから無視したのでは、子どもの立場がなくなつてしまいます。最後まで聞く耳を

母さんのいうこと聞かないの」「そう、それではもうお母さんもあなたのいうこと何も聞いてあげませんから」と恩着せがましく言ったのでは子どものために何の役にもたちません。

#### お前はでき損ないだ

子どもが何かに失敗するとすぐに「お母さんはこうでなかつたのに、お父さんに似たのでしょう」と怒つて叱る。お母さんが子どもをでき損

持つこと、そして大人の感覚で答えるのではなく、子どもの立場でわかるように答えてあげることが必要です。そうしないと話さない相談しない子どもになってしまいます。

#### ・・・してやったのに

お母さんが子どもに用事を頼んでも子どもがなかなか腰をあげないと「いつもお母さんはあなたのいうことを聞いてあげるでしょう。どうしてお

の縁を切るぞ」とか「お前みたいなのがキは出て行け」と怒鳴ります。子どもにとって家は安住の場所です。それ故に子どもにとって冷たいおしおきです。だから子どもも負けていないで「俺も産んでくれ」と頼んだ覚えはない。「俺もこんな家にいつまでもいたくない」と言つて家出をしたり、家庭内暴力・自殺等に走ることもあります。

その他まだまだ禁句は多数ありますが、子どもを叱つても良いが子どもを「けなさない」ことです。どんな子どもにも、すばらしい個性・能力を持っていきます。その個性・能力の良い点を見つけ、引き伸ばしてやるのが大切なのです。

ないと言うことは、兄弟とか他人の子どもと比較して考えるからです。これでは子どもの自尊心が傷つけられてしまいます。子どもは、精一杯の努力をしています。どこか良い点を見つけてやるのが大切です。

#### 親子の縁を切るぞ

子どもが悪いことを繰り返すと、悪気もなく脅しの軽い気持ちで、つい口にして「親子



ある人が「可愛いくば二つ叱つて三つほめ五つ教えて良き人にせん」「目で見せて言つて聞かせてさせてみてほめてやらねば誰れもしはせぬ」どうかお母さん、頭の片隅にとどめ子育てに励んでください。